

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2172200210
法人名	株式会社共寿
事業所名	海津福寿苑
訪問調査日	平成 21 年 2 月 28 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 26 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2172200210
法人名	株式会社 共寿
事業所名	グループホーム 海津「福寿苑」
所在地	海津市海津町福江627 (電話) 0584-54-0291

評価機関名	NPO法人 旅人となつた会		
所在地	大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成21年2月28日	評価確定日	平成21年3月26日

【情報提供票より】(21年 1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	4月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	22 人	常勤	8 人	非常勤 14 人
		常勤換算	13.3	人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1 階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	37,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	550	円	

(4) 利用者の概要(1月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	66 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐久間医院 海津市医師会病院 高須歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者、管理者、職員は自分や家族が入りたいと思えるホーム作りを目指している。職員は利用者を家族のように感じている。理念に基づき「その人らしく生き抜く」ことの支援を目指し職員自らがケアの質を高めようと、話し合い実践している。このことが離職率の減少に繋がっており、運営者や管理者は職員の実践を温かく見守り、良好なチームケア体制の基盤となっている。利用者は和の空間を取り入れた開放的な室内で鉢植えの趣味を楽しんだり、日向ぼっこをしたり、朝寝坊をするなどゆったりと思いいに過ごしている。家族の訪問も頻繁で職員とも馴染みの関係である。希望すれば、最後までここで過ごす事ができ、ホーム側も希望を受け入れている。介護計画に添った、より利用者に適したケアは何か倫理を含め勉強会を行い、信頼関係のあるチームの連携作り、日々の介護が馴れ合いにならないよう尊厳あるケアについて徹底するなど職員全体の質の向上に繋がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題は、職員会議で検討し改善に向けて取り組みをしている。理念は地域密着型サービスとして事業所独自の理念に作りあげた。理念や外部評価をホーム便り、運営推進会議を通じて地域の人々にも伝えている。介護計画は、家族、職員の気付きや意見と毎月のモニタリングを行い、現状に即した介護計画の見直しをしている。プライバシーの観点から居室の小窓にはカーテンが取り付けられた。改善計画シートに取り組み状況と結果を記録している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を全員で行い、外部評価の結果を職員会議で報告し、検討、改善策を立てるなど職員の意識の統一とケアの振り返りや見直しを行っている。より高いケアを目指し、今後取り組んでいきたい内容について項目全てに意見が書かれるなど積極的に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を「福寿の集い」と名付け3ヶ月に1回定期的に開催している。会議には高齢福祉課の職員、自治会役員、家族等が参加し、事業所の利用状況、行事、日頃のケアのあり方、外部評価の結果等を報告している。そこでの意見、結果を、ホーム便りに掲載し、職員会議で伝えサービスの質の向上に活かす努力をしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム便りに行事案内を掲載し、家族の訪問時には、利用者の暮らしぶりや健康状態の報告、金銭の残高を確認している。また、請求書送付時に写真や手紙を同封し様子を報告している。陶芸教室や音楽療法など家族が集まる機会を作り、信頼関係を築き気軽に意見を伝えやすい雰囲気を作れるようコミュニケーションに心がけている。出された意見は会議で話し合い対応策を実践している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の夏祭りへの参加、ボランティアによる草むしりやレクリエーション行事の参加等地元の人々と交流がある。また、隣接するデイサービスの方たちと交流し、認知症の理解を深めているが、地域の一員としての取組みがない。近隣の住宅から離れた場所に位置し、交流しにくい面もある。現在、地域の一員として交通パトロールや子供110番を検討している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、利用者が住み慣れた地域と関わりその人らしく生きるための支援を理念に置いている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や会議室に理念が掲げられ、申し送り時、勉強会、ユニット会議など職員一同で理念を唱和し意識付けを図っている。職員も理解し、日々のケアに活かしている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りへの参加、大掃除、草むしりやレクリエーション等ボランティアによる活動を受け入れる等地元の人々と交流がある。また、隣接するデイサービスの人達と交流し、認知症の理解を深めているが、地域の一員としての取り組みがない。		近隣の住宅から離れた場所に位置しており、交流しにくい面もある。横断歩道での交通パトロールや子供110番を検討している。地元の人との交流や地域の一員としての役割を担いたいという意向があり、今後に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行い、外部評価の結果を職員会議で報告し、検討、改善策を立てている。職員の意識の統一とケアの振り返り見直しを行い、サービスの質の向上に向け積極的に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、家族、自治会、行政職員が参加し、利用状況やサービス内容、外部評価の結果を報告している。そこでの意見を職員会議で伝えサービス向上に活かす努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携において、FAXで済む事も、極力、高齢福祉課へ足を運び、担当者顔見知りになる機会を作っている。これまでスプリンクラーの助成金の相談をするなど課題解決に向け取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	年4回のホーム便りの発行の他、家族の訪問時に利用者の暮らしぶりや健康状態を報告し、お金を管理している利用者には金銭の残高の確認をしている。訪問の少ない家族には、毎月請求書と一緒に写真や手紙で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	陶芸教室や音楽療法など家族が集まる機会を作り、家族の訪問時に、利用者の希望を伝えたり、家族からの意見はその都度、話し合い対応している。職員と家族が信頼関係を築き、気軽に意見を言える雰囲気を作れるようコミュニケーションに心がけている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、職員交代による利用者のダメージを考慮し、同法人内の人事異動を最小限に抑える配慮もある。長期入居者も多いため、職員は、利用者や家族のように考えケアを行っている。		
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他事業者と勉強会を企画実施したり、随時、必要な研修に参加を勧め、希望があれば参加できるよう勤務体制に配慮もある。介護に対して職員に不安、疑問があれば直に指導を受け、解決している。研修の資料を全職員に配り、月1回の全体会議の中で報告し、研修内容を共有しているが、研修計画が立てられていない。		実務に支障を来たさないように研修の機会を確保するために計画を立て、各職員の経験、習熟度に応じて、段階的に力をつけ更なる質の向上を期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に同業者の数が少ないため、居宅介護支援事業所や医療機関、施設の勉強会に参加している。また、同法人の事業所の勉強会やイベントにも参加し、職員の交流や活動を通じ、サービスの質を向上させていく取り組みがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	退院から入居となるケースが多く、決定から入居までの期間も短い。時間をかけ徐々に慣れていくことは難しいが、できるだけ管理者が出向いて様子を伺っている。		入居決定より利用に至るまでの期間が短く困難と思われるが、短時間でもできるだけホームに足を運んでもらい、ホームの環境や他の利用者、職員に徐々に馴染め、安心して入居ができるような工夫を期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から巻き寿司作りや野菜の調理方法、味付けを教わっている。夜勤者への優しい言葉で労ってもらうなど、一緒に過ごす暮らしの中で子や孫のように喜びを共感し、学んだり、支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの行動パターンを把握し、理解できない時には家族、看護師、医師と相談している。不安になる時には原因を探り、日々の関わりの中で行動や表情より真意をくみ取るよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃より、日々の関わりの中で利用者の思いや意向をくみ取り、訪問時に家族から希望や意見を聞くなど情報交換をしている。また、担当職員が気づきや意見、リスクを提案し、職員間で話し合い検討し、介護計画に反映している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に添った介護記録より、実施状況、効果を評価し、毎月モニタリングを行っている。利用者の状態に変化がある時は、本人、家族、看護師等と相談し、見直しを検討し、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況や要望に応じて通院や外出の支援を行っている。利用者が入院した場合は、病院が近い事もあり、家族と連絡を取り洗濯やオムツの補給等を行い、医療連携体制を活かし、早期退院に向け支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時には希望の医師を確認し、本人や家族の希望に応じて通院介助を行ったり、往診診療を受けている。家族同行によるかかりつけ医受診の際は、結果を共有するなど適切な医療の受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りにおける意志確認書を作成し、事業所が対応できるケアについて説明している。また、状態の変化に応じ本人、家族、医師と繰り返し話し合い、本人、家族の意向を確認し本人、家族、医師、職員全員で方針の共有を図っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳あるケアについて勉強会や会議、自己評価のチェックや職員との面談を実施し対応の徹底を図っている。職員は自己のケアについて継続的に振り返り、日々のケアの場面で馴れ合いにならないよう心がけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝寝坊をして遅い朝食を食べる人、散歩に行く人、晩酌をしたい人等利用者の体調を確認し、思いに配慮し、本人のペースに合わせ希望に添った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは旬の野菜を利用し、利用者と相談して決めている。座席、食器類の選択にも気を配っている。職員も同じテーブルを囲み楽しく会話をし、一人ひとりの様子を見守りながら食事をしている。職員と一緒に食事の準備や後片づけをする人もいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日中であれば、毎日の入浴も可能である。重度の利用者には移動できる縁台を作成し入浴に利用するなど、一人ひとりの意向や体調に合わせてくつろげる気分で入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	おしぼり、洗濯たたみ、新聞たたみ、花の水やり、花を活ける、草むしり、日めくりめくり、野菜の収穫など個別マニュアルを利用し、何ができ楽しみとなるか職員間で話し合い、できそうな事を依頼している。感謝の言葉を伝え、一人ひとりの生活歴や力を活かす役割、気晴らしの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	喫茶店、ショッピングセンター、コンビニへの買い物、誕生会は外食をしたり、花見や弁当持参でアクアパークに出かけるなど外出の機会が多い。天気の良い日は、ほぼ毎日、ホームの外で日光浴や散歩など職員が外出できるよう働きかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外に出たい時、玄関脇のボタンを押して自由に外に出ることができる。ボタンを押せない利用者には、外出したい様子があれば、職員が声掛けし、一緒に付き添っている。束縛感を感じることなく安全面を配慮し鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	寝たきりの利用者も参加し年1回の避難訓練を行っている。また、非常時の備えとして飲料水を準備している。運営推進会議で連携体制が築けるよう努力をしているが、高齢者世帯が多く地域の人々の参加がない。		今後も引き続き働きかけ、地域の人々の参加や夜間を想定しての避難訓練の実施を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりの食事、水分摂取量を記録し、健康診断で栄養状態を把握している。残食の多い利用者には、原因、対策を職員で話し合い、家族と相談している。また、トロミの加減を職員自ら試行し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>中庭には梅の花が咲き、廊下には温かい陽ざしが入り、ゆったり過ごせる空間となっている。また、リビングの天井が高く、明るく開放感がある。玄関には手作りの雛人形、壁には利用者の活けた花、習字、貼り絵が飾られ、季節感や生活感があり居心地良く過ごせる工夫をしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の好みや身体状況に合わせ洋室に畳を入れ和室に変更するなどの配慮がある。家族の協力を得て馴染みの物を持参している。家族の写真やタンス、位牌などが持ち込まれ、花好きの利用者の居室には、いろいろな花が飾られるなど本人が居心地良く過ごせる工夫がある。</p>		